

東大病院だより

No. 66

小石川植物園

表題：海野濤山書

三四郎池

東大病院

不忍池

hd 東大病院
The University of Tokyo Hospital

上野不忍池上空から本郷キャンパスと小石川植物園を望む

CONTENTS

- ◆ 東京大学を夏の空から探訪 ……………(加我) ……2
- ◆ 東京大学医学部・医学部附属病院創立150周年記念モニュメント除幕式について ……3
- ◆ 教授就任の挨拶 女性診療科・産科 ……………(上妻) ……4
- ◆ 教授就任の挨拶 皮膚科・皮膚光線レーザー科 ……(佐藤) ……5
- ◆ 医学歴史ミュージアムの紹介(12)
森鷗外(林太郎) 4. 一現在の森鷗外の史跡を訪ねて— (加我) ……6
- ◆ 東京大学医学部附属病院の最近50年の歴史(その5) ……………9
- ◆ スタインベルグピアノ修復に向けて(1)
—ピアノ修復作業が開始される— ……………(平井) ……10
- ◆ 東大病院の電子カルテシステムの稼働 ……………11
- ◆ 東大病院まるごと探訪フェスティバル
—卒業臨床研修・専門研修説明会が開催される— ……………12
- ◆ 看護師宿舎5号棟完成式について ……………13
- ◆ 入院棟 A グリーンテラス命名式について ……………13
- ◆ 検診部で子ども見学デーが開催される ……………14
- ◆ 新型インフルエンザ対策に係る検査業務の協力者に対する
厚生労働大臣からの感謝状贈呈について ……………14
- ◆ 出来事(5月から8月) ……………15
- ◆ 東大病院の四季(夏の彩り) ……………16
- ◆ 第2回(平成21年度)東大病院ベストスタッフ賞について ……………16

東京大学を夏の空から探訪

— 大都会東京の緑のオアシス —

快晴の夏の空からドクターヘリより撮影した東大病院（表紙）および、東京大学の写真を東大病院だより編集部からの暑中見舞いとしてお届けします。ドクターヘリから、編集部3名が撮影しました。人工衛星や飛行機から撮った写真とは異なり、ヘリコプター独特の目線からの美しい写真です。ビルばかりの東京のなかで東京大学は緑の豊かなオアシスのようです。撮影の機会を与えて頂いた松本茂伸氏に感謝申し上げます。（加我 君孝）



1. 本郷通りより東京大学本郷キャンパスと病院地区を見る。



2. 東京タワーから東京湾を望む



3. 小石川植物園



4. 小石川後楽園と東京ドーム



5. 東京大学駒場キャンパス（目黒区駒場）



6. 夏の隅田川

東京大学医学部・医学部附属病院創立150周年記念モニュメント除幕式について

— 医学部本館前特設会場 平成21年7月28日(火) —



1. 創立150周年記念モニュメント銘板



3. 平野智子氏挨拶
(医学部生、モニュメントデザイナー)



2. 創立150周年記念モニュメント除幕



4. 記念撮影

医学部・医学部附属病院では、7月28日(火)13時から創立150周年記念事業「学生提案モニュメント公募企画」最優秀作品として、創立150周年記念モニュメントが医学部本館前に完成したことにより、濱田純一総長をはじめ、本モニュメントをデザインした平野智子氏(医学部学生)ほか多数の関係者をお招きして、創立150周年記念モニュメントの除幕式を挙行了した。

除幕式の開催にあたり、清水孝雄医学系研究科長より開式の辞として、関係者への謝辞が述べられた。

また、濱田純一総長からは、本モニュメント完成あたってお祝いの御挨拶をいただいた。

引き続き、モニュメントの除幕が行われ列席者から盛大な拍手をいただいた。

除幕後、中村耕三教授(記念モニュメント実施計画担当)並びに平野智子氏から挨拶が行われ、最後に医学部2号館本館をバックに全員で記念撮影が行われた。このモニュメントが「明日の医学と医療を拓く」をシンボルとして存続することを祈念して、除幕式は終了した。

本モニュメントは、二人の人が向き合い、手を取りあい、ひとつの球を支える像で、正面から見ると、全体としてMedicineの「M」を象っており、手を取りあう二人の人は「医師(医療従事者)と患者」「医学部と医学部附属病院」「教育と研究」とその協調関係を表現している。

教授就任の挨拶



女性診療科・産科
教授 上妻 志郎

平成20年12月1日付けで女性診療科・産科の教授を拝命いたしました上妻志郎（こうづま しろう）です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

産婦人科という名称が長く親しまれてきましたが、本院では女性診療科・産科と女性外科とから成り立っております。女性診療科・産科は主として、妊娠・出産にかかわる診療、女性外科は女性生殖器の疾患に対する治療を担当しております。私のような年長組は今でも両科の診療に携わっておりますが、近年は専門化が進み、それぞれの専門家が中心となってそれぞれの病棟を支えています。一方、産婦人科医の研修としては、両方で経験を積むことが必要ですので、若手医師はローテイトしています。両病棟における診療内容は全く異なっているのですが、医師の出入りがあったり、外来診療では重複する部分がありますので、その違いがわかりにくいかもしれません。診療内容的には専門分化はさらに進む方向にありますが、それらを完全に独立させることは限られた資源の中では得策とは言えず、上手な協力関係が双方のさらなる発展のためにも重要であります。院内の皆様には、この点をご理解いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

私は昭和53年に本学卒業後、数年の外部での研修期間を除くと、ほとんどの時間をこの東大病院で過ごしてきました。院内の皆様とも一度くらいはどこかでお会いしたことがあるのではないかと思います。卒業後の数年間はほとんど毎日病院に寝泊まりする生活であり、当直の先生方の話を聞いたりしながら一緒に時を過ごすことが楽しかったことを思い出します。その後、ヤギを用いた人工子宮の開発に関する研究に約10年間携わりましたが、この研究では徹夜でヤギの胎児の世話をする必要があり、この頃も

家にはあまり帰りませんでした。当時は万事のんびりとしており、好きなことに没頭できたのかもしれませんが。このような生活は現在では回避すべきものでありますが、それなりに得るところも大きかったように思います。また、研修医時代における超音波診断との出会いは、その後の診療・研究の方向性を決定づけるものでありました。

女性診療科・産科の診療内容をご紹介します。平成20年度の取扱い分娩数は859件であり、年々増加する傾向にあります。産科崩壊といわれる社会的状況も反映して、昨年は前置胎盤21例、重症妊娠高血圧症候群24例、胎児異常53例（そのうち心血管系異常が24例）、多胎妊娠24例、合併症妊娠211例と、多くの異常例が紹介され、診療内容は充実の一途を辿っています。産科医療はチーム医療であり、少数の優秀な産科医がいれば何とかできるというものではありません。優秀な産科医・助産師の集団が必要であり、優秀な新生児科医も必須であります。胎児異常を伴う症例は優秀な新生児外科医のいる施設に集まります。麻酔科、救急部にお世話になる機会は多く、合併症の管理という意味では内科・外科を中心として、ほとんど全科の先生方にお世話になっております。このように、産科医療の質の高さは、それを専門としているものの質の高さだけではなく、実は病院の医療における総合力と密接な関係があるのです。産科医療を背後から支えているものの確かさが評価されることにより、紹介数が増えるという仕組みになっているのです。職員の当院での出産数が増えていることは、当院の診療に対する内部からの信頼の表れであると言えます。

症例数の増加等も含めて、充実した教育・研究ができる環境が整ってきました。安心できる産科医療を提供するとともに、学生教育、人材の育成には最大限の力を注ぎます。そして、今まで以上に多くのものをこの病院から社会に向けて発信していきたいと思っております。今後ともご支援いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

教授就任の挨拶



皮膚科・皮膚光線レーザー科
教授 佐藤 伸一

この度、平成21年7月1日付けで皮膚科の教授・診療科長を拝命いたしました。東大病院にて皮膚科を担当する、その責任の重さを改めて実感しております。どうかよろしくお願い申し上げます。

まずは誌面をお借りして、簡単に自己紹介をさせていただきます。私は昭和38年に大阪府で生まれ、現在46歳です。岡山朝日高等学校を経て、平成元年に本学を卒業後すぐに皮膚科学教室に入局しました。入局後は強皮症外来に参加し膠原病診療を始めることになり、これがその後の私の専門領域となりました。米国デューク大学免疫学教室で学んだ後、金沢大学皮膚科を経て、平成16年より5年間長崎大学皮膚科を担当いたしました。本学には15年ぶりに戻って参りましたので、新しい建物や病棟に戸惑う一方、昔から残っている建物には懐かしさをおぼえる毎日です。

皮膚科は皮膚に変化を来す疾患をすべて扱う診療科です。従って、皮膚科がカバーする領域は広範囲になります。アトピー性皮膚炎や乾癬といった皮膚科固有の疾患のみならず、皮疹を伴う膠原病、感染症などといった内科的な疾患、さらには悪性黒色腫に代表される皮膚悪性腫瘍に対する外科的な治療まで多彩な疾患をその守備範囲としています。皮膚科の多様性は疾患のみならず、年齢層も多彩であり新生児から高齢者まで取り扱います。このような多彩な疾患に対して、よりきめ細かく対応するために、特に重要な疾患については専門外来を設けております。現在専門外来としては、アトピー外来、角化症外来、乾癬外来、強皮症・膠原病外来、真菌外来、水疱症外来、脱毛症外来、白斑外来、皮膚外科外来、リンフォーマ外来、レーザー外来を設けています。

皮疹は目に見えて簡単に認識することが出来るため、多くの患者は皮疹に容易に気づきます。そのた

め、他科に通院中の患者が皮膚科に受診することが多くなります。さらに、入院中の患者が皮疹を訴えることもしばしばあります。例えば、痒みなどはよく訴えのある皮膚症状ですが、それ自体は生命予後に関係するような大きな問題ではないものの、患者にとっては QOL を障害する問題です。皮膚科は他科の患者に生じた、このような皮膚の問題を取り除くことによって QOL 向上を重視している診療科です。

また、皮膚科は QOL の向上だけではなく、他科の患者に生じた薬疹といった、大きな臨床的問題となりうる皮疹についてもその解決に貢献しています。さらに、私の専門領域であります膠原病などは皮疹を伴いやすく、皮疹の評価はしばしば診断のみならず、疾患活動性の評価としても重要なことがあります。このような場合には、他科と連携を密にして診療に当たっていきたいと考えております。このように、皮疹が目に見えて気づき安いという性質上、皮膚科が他科の患者を診察する機会が多いことから、入院や他科通院中の患者の QOL 向上について特に重要な役割を担っている診療科であることをご理解頂ければと思います。

皮膚科は前述しましたように、皮膚に変化を来す疾患をすべて扱う診療科です。皮膚病変のみを取り扱うというような消極的な診療科であってはならないと考えております。皮膚病変から全身を診ることができるよう診療科でなくてはなりません。このような観点で、視野の広い積極的な皮膚科医を養成することも重要な役割であると認識しています。

以上述べてきましたように、皮膚科は、老若男女を問わず、軽症から重症まで、内科的疾患から外科的疾患まで、生命に関わる重大な疾患から QOL の向上まで多岐にわたる疾患と価値観を包括した診療科です。このような多彩な価値観のいずれにおいても適切な診療を提供することによって東大病院に貢献すべく、誠心誠意努力していく所存です。ご指導、ご鞭撻を賜りますようどうか宜しくお願い申し上げます。

医学歴史ミュージアムの紹介（12）

森鷗外(林太郎) 4. — 現在の森鷗外の史跡を訪ねて —

加我 君孝

1. 東京大学医学部の学生時代

島根県の津和野から教育のために親に連れられ上京した10歳の森林太郎は、神田の西周の家に寄寓し、湯島から後楽園に降りる本郷壱岐殿坂にあった進文学社でドイツ語を学んだ（写真1）。明治時代は本郷神田界隈に多くの英語やドイツ語を教える学校があった。明治7年、年齢を偽って12歳で東京医学校予科へ入学した。明治9年に和洋折衷



写真1：本郷新壱岐坂

の東京医学校本館が、加賀屋敷すなわち現在の東京大学キャンパス内の現在の外来棟の位置に完成し、林太郎はこの建物で医学教育を受け、学生時代を過ごした。この建物は小石川植物園の日本庭園に保存され、東大総合研究博物館の小石川分室として使用されているので見学することができる。当時は教室だけでなく外来や病室としても使われた大きな明治時代の木造建築である。玄関に立つと植物園の庭園の美しい眺望を楽しむことができる。お雇い外国人医師のベルツ先生の歓送会、ノーベル物理学賞のアインシュタイン博士の歓迎会が行われた庭園である（写真2）。明治10年、東京大学の創立の年、医学部本科に進学し、5年間学んだ。卒業時の年齢は19歳であった。



写真2：東京医学校本館（小石川植物園）

2. ドイツ留学時代の4年間

医学部卒業時の成績が上位2番目までに入らなかったため、大学派遣のドイツ留学をあきらめざるを得なくなった。陸軍軍医本部に就職してそのルートからドイツ留学をする道に挑戦した。ドイツの衛生制度を研究し、本にまとめるなどしてアピールした。そのかいあって明治22年、4年間のドイツ留学が実現した。ベルリン大学病院の近くのビルに2階に寄宿した。そこが、現在のフンボルト大学の日本文学科の“森鷗外記念館”として保存され展示室として公開され、日独交流に貢献している（東大病院だより第63号参照）（写真3）。



写真3：ベルリンの森鷗外記念館のある建物

3. 『舞姫』を執筆した最初の住居—現在の上野池之端の水月ホテルにある鷗外荘

帰朝後、林太郎がベルリンで知り合った女性エリスが彼を訪ねて来日し問題となった。周囲が動いて帰国してもらうという事件に直面した。その後お世話になった西周のすすめで海軍中将・赤松則良の娘赤松登志子と結婚した。一緒に住んだ家が上野池之端近くの水月ホテル鷗外荘の庭の



写真4：水月ホテル鷗外荘
（パンフレットより転載）

中に保存されている。庭の広い大きな平屋である(写真4)。ここでは弟2人、世話係の老女と共に暮らす生活であった。そのうち弟2人に対する老女の扱い方に不満を持つようになることなどで、弟2人を連れて家出し、駒込の千駄木に祖母、両親らと住んだ。わずか1年半の最初の結婚生活であった。この家で林太郎は初めて『舞姫』、『うたかたの記』などの文学作品を書くようになった。ペンネームを“森鷗外”と名乗った。鷗外の言われは、千住大橋の近くに記念碑がある(写真5)。千住の隅田川の鷗に因んで命名したという。空を飛ぶ鷗のように自由でありたいということであろう。ここは父親の医院があったところで、東京医学校にはここより通学した。

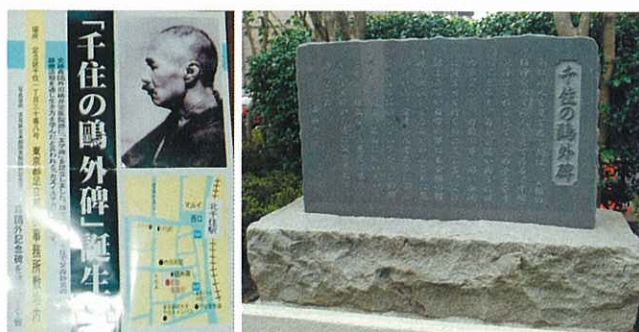


写真5: 千住の森鷗外碑

4. 九州小倉での陸軍軍医監としての陸軍第12師団への勤務(1899~1902)

明治26年、31歳で陸軍軍医学校長となった。陸軍軍医学校では、同級生の小池が総医監に昇進した。小池は自分より8歳上で仕方がないことでもあった。明治32年、林太郎は小倉にある小倉第12師団軍医部長として勤務を命じられた。本人は左遷とみなし失意の異動であった。小倉駅から歩いて5~6分のところの平屋に住んだ。ここは北九州市指定文化財史跡「森鷗外旧居」として保管されている(写真6)。たった一人で住むには大きな家で庭も広々としている。林太郎は北九州を旅しては作品を書いたため各地に鷗外記念の文学碑がある。小倉にいなが



写真6: 森鷗外旧居(北九州市)

ら現地の新聞に文学評論を書いている。小倉滞在中に鷗外の母のすすめで美人で評判の荒木志げと見合いし、40歳で結婚した。ともに再婚であった。媒酌人は耳鼻咽喉科の岡田和一郎教授であった。

小倉にはその後別に住んだ家の記念碑と小倉城の間を流れる紫川に“鷗外橋”が完成した(写真7)。小倉のおみやげのお菓子里に鷗外の名のついたものがいくつもある。



写真7: 鷗外橋(小倉)

5. 再び東京へー駒込の団子坂の観潮楼での文学活動(1902~1922)

団子坂に文京区立本郷図書館がある。そこに鷗外記念室があったが、現在新たに文京区立の鷗外記念館を建設すべく、募金が行われている。この地に林太郎が鷗外として活躍した終の棲家があった。汐見坂にちなんで“観潮楼”と名付け、短歌の句会や多くの文学者と集うのに利用した(写真8)。石川啄木や斎藤茂吉も参加した。昔はここからも海が見えたのであろう。



写真8: 観潮楼(千駄木)

この家での生活は、朝、戸山に陸軍軍医学校長として馬で出かけ、夕方には戻ると、少しだけ睡眠をとり、その後文学作品の執筆活動に没頭するという2足のわらじの生活であった。このように公的にも軍医学校の要職にあって多忙であったにもかかわらず、わが国の文学史に残る多くの名作を生んだことは驚異的なことである。新宿区戸山町の国立国際医療センター戸山病院には鷗外が軍医学



写真9：軍医学校長として使用した机
国立国際医療センター戸山病院

太宰治



写真11：駒込の高林寺にある緒方洪庵のお墓と鷗外の書いた碑文

森鷗外



写真10：三鷹の禅林寺にあるお墓
森鷗外と太宰治が向かい合っている

校長として使用した机が記念コーナーとして展示されている（写真9）。

鷗外の好んだ食べ物に“お茶漬けまんじゅう”がある。文京区の歴史ミュージアムで昨年再現して展示があった。要するにお茶漬けにまんじゅうをのせて食したものである。鷗外は医者であるが医者に診てもらうことが嫌であった。晩年は萎縮腎・肺結核で亡くなったといわれる。遺書は同級生の耳鼻咽喉科医の賀古鶴所に口述筆記を頼んだ。その内容は「自分は津和野生まれの森林太郎として死ぬのであって、それ以外の何ものでもない」という内容である。鷗外は、大正11年7月9日に観潮楼の自宅で亡くなった。お墓は三鷹の禅林寺にある。太宰治のお墓と向かい合うような配置である（写真10）。太宰治の方は桜桃忌があり毎年6月に賑わうが鷗外の方は特別な行事はない。

東大周辺の鷗外に関連したものを紹介する。東京大学総合図書館に森鷗外の蔵書18,000冊が“鷗外文庫”として保存されている。駒込の高林寺には緒方洪庵のお墓があるが、そこに鷗外の書いた碑文が大きな記念碑として残っている（写真11）。東大病院の南の無縁坂は鷗外49歳の時の作品「雁」に登場することで知られ、東大



写真12：無縁坂（東大病院の前）

病院関係者にとっては最も身近な鷗外所縁の坂といえる（写真12）。今年は横浜開港150周年を迎えたが、横浜市の歌は鷗外の作詞で現在も歌われている（写真13）。

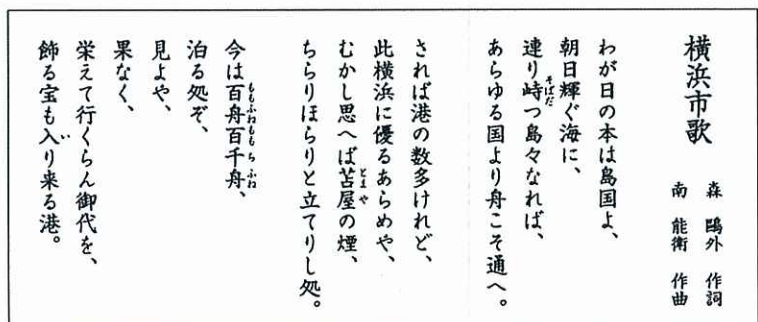


写真13：横浜市歌

東京大学医学部附属病院の最近50年の歴史

その5：平成元年（1989）～平成9年（1997）

医学部附属病院の動き

国内外の動き

平成元年（1989）	11月16日 科学技術庁原子力安全局放射線安全課により、立入検査が行われた	1月 元号が平成に改元される 2月 ソ連がアフガニスタンから撤退完了 2月 昭和天皇大喪の礼 4月 消費税施行、税率3% 6月 天安門事件 11月 ベルリンの壁崩壊
平成2年（1990）	1月 放射線問題緊急対策委員会設置 6月 救急医学講座設置	1月 第1回大学入試センター試験実施 3月 脳死臨調が発足 4月 ハッブル宇宙望遠鏡がスペースディスカバリーと共に打ち上げられる 8月 イラクがクウェートに侵攻 10月 ドイツ再統一
平成3年（1991）	1月 院内感染対策部設置 (平成5年9月感染制御部に改称)	1月 湾岸戦争、多国籍軍がイラク空爆開始
平成4年（1992）	4月 医学部保健学科が健康科学・看護学科と改称 4月 疫学講座→疫学・生物統計学講座 4月 看護学講座→基礎看護学講座 4月 成人保健学講座→成人保健・看護学講座 4月 精神保健学講座→精神衛生・看護学講座 4月 新たに地域看護学講座・家族看護学講座が設置される 4月 医学系研究科に国際保健学専攻（人類遺伝学講座・国際保健計画学講座・国際地域保健学講座）が設置 7月 医学部放射線研究施設設置	3月 東海道新幹線「のぞみ」運転開始 4月 ボスニア・ヘルツェゴビナ紛争開始 6月 第二次医療法改正（医療提供の理念規定、特定機能病院、広告規制緩和、院内掲示） 9月 毛利衛がスペースシャトルエンデバーで宇宙空間に向けて出発 10月 天皇陛下、初の中国訪問
平成5年（1993）	4月 音声言語医学研究施設「音声・言語病理部門」は「言語神経科学部門」に改称 4月 心身医学講座設置 4月 小児術後治療部を集中治療部と改称 12月 新外来棟竣工	1月 ヨーロッパ単一市場（12カ国）発足 2月 能登沖地震発生 7月 北海道南西沖地震（奥尻島）発生 8月 細川連立政権発足、55年体制の崩壊 11月 欧州連合（EU）発足
平成6年（1994）	6月 感染制御学講座設置 7月 新外来診療棟で診療開始	2月 純国産H2ロケット打ち上げ成功 10月 大江健三郎氏ノーベル文学賞受賞
平成7年（1995）	4月 大学院講座制に移行 第三基礎医学、社会医学、第三臨床医学、第四臨床医学の4専攻を廃止し、病因・病理学、社会科学、生殖・発達・加齢医学、外科学の4専攻に改組 4月 特定機能病院承認 6月 周産期母子診療部設置	1月 阪神・淡路大震災 3月 地下鉄サリン事件 11月 科学技術基本法制定 11月 ザイールでエボラ出血熱発生
平成8年（1996）	4月 大学院講座制に移行 第一臨床医学、保健学、国際保健学の3専攻を廃止、内科学、健康科学、看護学、国際保健学の3専攻に改組 5月 無菌治療部設置	1月 若田光一氏スペースシャトルエンデバーに乗船 7月 堺市でO157集団食中毒事件発生
平成9年（1997）	4月 大学院講座制に移行 第一基礎医学、第二基礎医学、第二臨床医学の3専攻を廃止し、分子細胞生物学、機能生物学、生体物理学、脳神経医学の4専攻に改組 この改組に伴い脳研究施設、医用電子研究施設、音声言語医学研究所の3施設を廃止 4月 医学系研究科に医科学修士課程設置 医学科・歯学科・獣医学科以外の学部学科卒業者が対象 4月 光学医療診療部、医療社会福祉部設置	2月 クローン羊「ドリー」誕生 4月 消費税が3%から5%に増税 4月 ベルー日本大使公邸占拠事件 7月 香港が英国から返還される 8月 ダイアナ元皇太子妃事故死 9月 インドにてマザーテレサ国葬 10月 臓器移植法施行 12月 地球温暖化防止に向け京都議定書採択 12月 介護保険法公布

スタインベルグピアノ修復に向けて（1）

— ピアノ修復作業が開始される —

東大病院芙蓉会スタインベルグピアノ修復実行事務局では、昭和13年に芙蓉会（看護師とOBの同窓会）へ、作曲家山田耕筰先生から寄贈されたドイツ製スタインベルグピアノ（アップライト）の修復募金を本年2月から開始し、6月9日（火）山田耕筰先生のご生誕の日（明治19年6月9日）に合わせて、大阪のピアノ修理工房へピアノ搬送を行い、修復作業を開始した。

また、当日NHKで「山田耕筰寄贈のピアノ修復へ」が放映された。

ピアノ修復開始にあたって（挨拶）

東大病院芙蓉会スタインベルグピアノ修復実行事務局長
平井 優美

この度、皆様のご理解とご協力によりピアノの修復作業が、無事開始されましたことを厚く御礼申し上げます。



解体前のピアノ

50年間眠っていた山田耕筰先生より寄贈されたスタインベルグ社のピアノが再び目覚めようとしています。皆様のご厚意の募金により、ようやく修理の目処がたち修理に踏み切りました。思えば50年間という長い間封印されてきたわけですから、現役の看護師、病院関係者の誰一人とその音色を聞いたことはありません。

現在、関係者並びにこのピアノの修復にあたる職人一同、幻のピアノの音色を忠実に蘇らせ、皆様にお聴きいただくため、一丸となって修復に向けて作業を行っております。

また、本ピアノの修復募金を下記により募集しておりますので、今後ともご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

募金目標金額 400万円

募金開始 平成21年2月1日

募金口座（郵便振替）

00170-0-718087

加入者名：芙蓉会スタインベルグピアノ修復
実行事務局

お問い合わせ先

東大病院芙蓉会スタインベルグピアノ修復実行事務局
〒113-8655 文京区本郷7-3-1

東京大学医学部附属病院 芙蓉会（看護部内）

☎03-3815-5411（代表）

担当者：平井（PHS30932）、佐藤（PHS30959）

ピアノ修復作業について

6月9日（火）大阪のピアノ修理工房へ搬送されたピアノは、昨年6月に岐阜県中津川市立落合中学校で本院と同様のスタインベルグピアノ（アップライト）の修復を行った星野ピアノ工房 星野隆宣氏とこれまで岡山県政田小学校のスタインベルグピアノの修復やSTEINWAYピアノを中心として、数多くのピアノの修復にあられた松本安生氏を中心とする工房のスタッフと関係者の立会いの元、6月22日（月）にピアノの解体が行われた。

演奏できない状態で永年保存されてきたピアノの外観と内部はハンマーフェルトの虫食いや響板の割れ等、かなり傷みが進んでいたが、ピアノを可能な限り忠実に修復しようとする熟練したピアノ職人達の熱意が解体作業を通して伝わり、確かな「幻のピアノ」の再生を実感させた。

また、解体作業により本ピアノに使用されているアクション・鍵盤の構造は、現在のピアノには全く見ることが出来ないチェンバロの構造が取り入れられていることから、スタインベルグ社（1908年）創設初期のピアノであることが判明した。

今後、ピアノの修復作業は、約1年をかけて行われ、完成は来春を予定している。



スタインベルグピアノ
解体作業の様子



東大病院の電子カルテシステムの稼働

本院では、過去の診療録からの検索や管理、他科診療録の参照などを容易にし、より安全で質の高い医療を提供できることを目指して、2009年6月1日から電子カルテシステムを稼働させ、入院・外来患者の診療で新たに記録されるほとんどすべての診療録（カルテ）についてコンピュータ入力による電子化が始まりました。

「電子カルテシステム」という言葉は、各種の検査などの指示入力や処方せん作成なども含めた「総合診療情報システム」の意味で使われることもあります。本院ではこれらの多くは早くからオーダリングシステムとしてコンピュータ化されており、今回稼働した電子カルテシステムは診療記録のために特化したものとなっています。これにより、診療時に紙のカルテに記載されていた診療記録を含むほとんどすべての診療情報がコンピュータシステムで管理され、効率よく診療に生かせるようになりました。

このシステムについて、開発プロジェクト自体は何年も前からスタートしており、今回の全面運用となる以前から、一部業務で既に使われていました。

最初に院内業務に利用されるようになったのは、退院時病歴総括（退院サマリー）作成電子化の時で、これは2004年10月のことです。当時研修医だった医師はこのシステムで退院サマリーを書いていたことになり、今回の電子カルテシステムの根幹部分はこの時点ですでに稼働していました。

その後さらに、2005年4月からはマルファン外来という複数の診療科にまたがる専門グループ外来の診療でも使われるようになりました。各診療科ごとに記載場所が分けられた従来の外来カルテにくらべ、全診療科の記録が容易に参照でき、かつ自科診療録のみへの絞り込みや並べ替えも可能な電子カルテシステムは、このような外来には大変に適したものだといえます。

2007年3月には、入院患者の看護記録について、患者基本情報や中間・退院時サマリーにも適用が拡がりました。各病棟の看護師が、基本的に全入院患者についてこれらの記録に電子カルテシステムを使うようになったため、結果としてシステムの不具合や改善すべき点の洗い出しが行われ、また現場からの追加機能要望なども色々と反映されていきました。

このような経過を経て、2009年からすべての診療記録を

電子カルテシステムで行う方針に至りました。

病棟ではまず、2月以降の新規入院患者・転科患者から電子カルテを使い始めることになりました。幸い短期間のうちにシステム使用に慣れる職員が増え、利用状況は良好だったため、翌3月からは全入院患者のカルテを原則として電子化しました。

4月初めの時点での調査では、入院患者の98.8%で、医師による電子カルテ記載がされており、広く使われていることが示されました。

外来では、6月からは原則電子カルテに移行しました。この際には、各診療科の判断で6月初めの予約患者数を抑制（目安として1~2週間・10%程度）することを推奨して当初の混乱を避けるようにしました。実際の外来患者数は、第1週は15%程度、第2週は5%程度の減少がありましたが、以降は通常程度に戻っています。

外来での電子カルテ利用率も、開始直後の1週間で87.6%、1か月後では90.3%の利用状況でした。

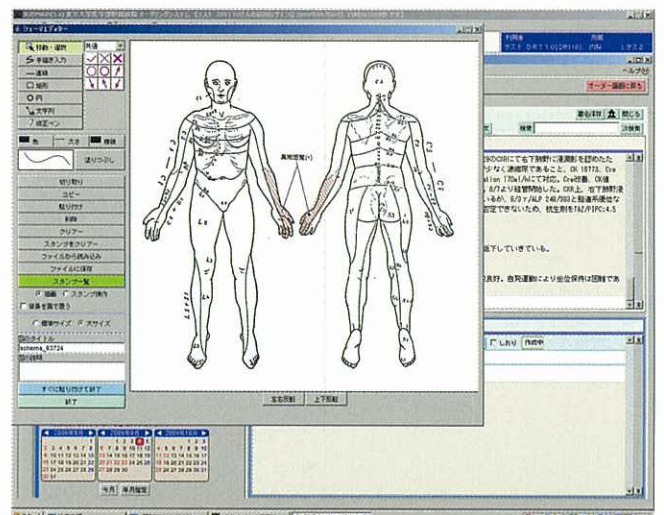
結果として、病棟・外来とも移行はスムーズで、不具合によるシステム障害や外来業務の著しい遅延などを起こすことなく開始できたと思っております。これも、運用開始前の限定利用の期間に利用いただいた方々、また開始後に積極的に電子カルテ移行をしていただいた職員の協力あってのことだと考えています。また外来患者様はじめとする来院の方々には、運用開始当初のしばらくの間はいろいろご不便やご迷惑をおかけしたことがあったと思いますが、ご理解とご協力いただきましたことこの場をお借りして感謝申し上げます。

なお、電子カルテシステムをスタートする以前の診療記録は、紙のカルテに記載されており、そうした過去の診療記録を参照しながら診療を行う必要があるため、当分の間は従来の紙のカルテも診察室に配送されています。

システムは現在も改善や追加機能の開発、新たに判明した不具合の対応を行っており、今後もより使いやすいシステムを目指し、患者様の診療データをより安全に管理し、効率良く日常診療に活用できるようにする所存です。

今後とも診療情報システムの円滑な運用への多くの皆様のご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

(企画情報運営部)



東大病院まると探訪フェスティバル

— 卒後臨床研修・専門研修説明会が開催される —

7月18日(土)に医学生、初期研修医を対象とした「東大病院まると探訪フェスティバル(卒後臨床研修・専門研修説明会)」を開催した。

本院の卒後臨床研修をより効果的、魅力的に広報するため、全国の医学部5・6年生及び初期研修医を対象に、主に各診療科を通じて、本院での卒後臨床研修や

専門研修を紹介することを目的に初めて企画したもので、医学部臨床講堂での説明会のほか、外来診療棟1階玄関ホールでは診療科(部)毎にブースを設置して、参加者が自由に各診療科(部)の先生方と直に接する機会を設けた。

当日は、9時30分からの受付開始と同時に大勢の参加者が集まり、北は北海道から南は沖縄まで、総勢315名の参加があった。

10時から医学部臨床講堂で医学生を対象に卒後臨床研修説明会を開催し、北村総合研修センター長から、平成22年度の研修プログラムや研修医の募集等について説明を行った。

引き続き12時からは、中央診療棟2(7階大会議室)で初期研修医を対象に専門研修説明会を開催し、専門研修プログラムについて説明を行った。

これと同時に、外来診療棟1階玄関ホールでは、10時からは主に初期研修医が、午後からは医学生が各診療科(部)のブースを訪れ、熱心に説明を受けていた。

東京大学医学部附属病院 総合研修センター

The Clinical Training Center, The University of Tokyo Hospital

〒113-8655 東京都文京区本郷7-3-1
TEL:03-3815-5411 FAX:03-5800-6937
E-mail: soken@h.u-tokyo.ac.jp

[卒後臨床研修初期](#)

[卒後臨床研修専門](#)

[各診療科の紹介](#)

[卒後臨床研修歯科](#)

[メンバー](#)

[外科医を目指す方へ](#)

[各種リンク](#)

[研修医募集](#)

[アクセスマップ](#)

[問合せ](#)

[お知らせ](#)



総合研修センター ホームページ URL <http://www.h.u-tokyo.ac.jp/soken/top.html>



専門研修説明会



外来棟玄関ホールでの各科(部)説明会



医学部臨床講堂での説明会

看護師宿舎5号棟完成式について

入院棟B東側の看護師宿舎敷地に建設された「看護師宿舎5号棟」の完成式が、7月27日（月）15時から宿舎現地にて、病院関係者により執り行われた。

完成式は、武谷病院長の挨拶の後、テープカットが行われ、新たな宿舎の完成を祝った。

また、完成式終了後、関係者により宿舎の見学会が行われた。

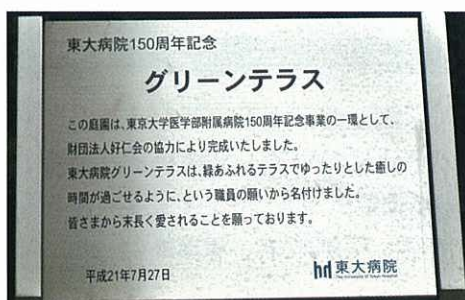
構造・階：RC造8階

建築面積：478m²

延床面積：3,607.16m²



入院棟 A グリーンテラス命名式について



3月にリニューアルオープンされた入院棟Aのテラスについて、教職員から名称を募集した結果、緑あふれるテラスでゆったりとした癒しの時間が過ごせるように、という職員の願いから「グリーンテラス」と命名された。

命名式は、7月27日（月）16時から執り行われ、武谷病院長の挨拶に引き続き、命名者への表彰状・記念品の授与、銘板の除幕が行われた。

命名式は、雨中にも関わらず、和やかに行われ、新たな癒しの空間が本院に誕生した。

検診部で子ども見学デーが開催される

検診部では、8月26日（水）9時から、文部科学省の取り組みとして実施するプログラム「子ども見学デー」が開催された。

当日は、小学2年生から中学3年生の18名の子ども達とその保護者が参加し、山崎力検診部長からスライドを見ながら人間ドックについての講演を聴いた。その後実際に上部消化管内視鏡（模型）の操作や心エコーを行い、内科診察や脳神経についての説明を受けた。また、各自、呼吸機能、眼圧、眼底等の各検査を体験型ウォークラリー形式で回りながら結果表を作成した。

検診部は、今年の7月に開設2周年を



聴診体験で自分の心音を聴く子ども達

迎えたことから、人間ドックについて、一般の方に広報する機会を得た。

子ども見学デーは、子どものいきいきした表情とともに盛会のうちに12時前に終了し、参加者からは、すばらしい企画であったとのご感想を頂いた。



子ども見学デー参加者と検診部スタッフ

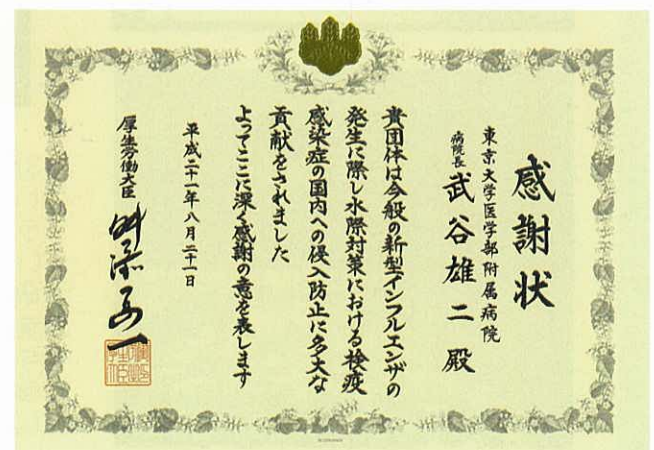
新型インフルエンザ対策に係る検疫業務の協力者に対する厚生労働大臣からの感謝状贈呈について

8月27日（木）11時から新型インフルエンザ対策に係る検疫業務協力者に対する大臣感謝状の贈呈式が厚生労働省大臣室で行われた。



感謝状は、検疫業務の応援及び停留施設等について尽力した団体及び個人の方々を代表する者に贈呈された。本院については、検疫業務の支援を行った国立大学法人5大学病院（筑波大学附属病院、千葉大学医学部附属病院、東京大学医学部附属病院、京都大学医学部附属病院、九州大学病院）を代表して武谷雄二病院長と本院の医師・看護師を代表してアレルギー・リウマチ内科 関谷 剛医師へ舛添厚生労働大臣から感謝状が贈呈された。

本院は、新型インフルエンザの発生による成田空港での検疫強化について、文部科学省を通じて厚生労働省から派遣要請があったことに対応し、5月22日（金）までの間、医師12名、看護師4名が協力した。



出来事

平成21年5月～平成21年8月

5月13日(水) ふれあい看護体験

5月12日看護の日(近代看護を築いたフローレンス・ナイチンゲルの誕生日)にちなみ、高校生、社会人を対象として、ふれあい看護体験が実施された。

(看護部)



5月15日(金) 新型インフルエンザセミナー

時間: 17:30～18:15

場所: 臨床講堂

テーマ: 緊急セミナー 新型インフルエンザ(ブタ由来インフルエンザA/H1N1)

講師: 感染制御部・感染症内科・感染対策センター

(感染対策センター)

5月19日(火) 第20回東大研究倫理セミナー

場所: 医学部鉄門記念講堂(教育研究棟14階)

司会: 赤林 朗

(医学系研究科・医学部倫理委員会委員長)

荒川義弘(病院臨床試験部副部長)

第Ⅰ部 17:00-17:35

更新受講者講習会

荒川義弘(病院臨床試験部副部長)

第Ⅱ部 17:40-18:10

基調講演(新規受講者は必修、更新受講者は任意)

「医学研究とインフォームド・コンセント」

前田正一(慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科准教授)

第Ⅲ部 新規受講者講習会 18:15-19:40

1 各種指針と医学系研究科・医学部における研究倫理審査体制

赤林 朗

(医学系研究科・医学部倫理委員会委員長)

2 研究倫理審査を受けるための手続き

徳永勝士(ヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理審査委員会委員長)

3 臨床研究における個人情報管理

大江和彦(ヒトゲノム・遺伝子解析研究個人情報管理者、病院医療情報管理委員会委員長)

4 病院治験審査委員会への申請と臨床試験部の支援

黒川峰夫(病院治験審査委員会委員長)

まとめ 黒川峰夫

主 催: 医学系研究科・医学部倫理委員会、ヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理審査委員会、病院治験審査委員会、病院臨床試験部、病院企画情報運営部、病院総合研修センター

5月26日(火) ミニコンサート

時間: 16:45～17:30

場所: 外来診療棟1階玄関ホール

演奏: 大塚幸子氏他(テノール・ソプラノ・ピアニスト)

(医療サービス推進委員会)



6月3日(水) ミニコンサート

時間: 16:45～17:30

場所: 外来診療棟1階玄関ホール

演奏: 中島伸子氏(ピアノ)、綱川泰典(フルート)

(医療サービス推進委員会)



6月5日(金) 病院機能評価に関する講演会

時間: 16:30～17:30

場所: 臨床講堂

テーマ: 機能評価のケアプロセスについて

講師: 財団法人脳神経疾患研究所附属総合南北病院副院長

(前東京大学医科学研究所附属病院看護部長) 濱尾房子氏

(医療の標準化・質検討委員会)

6月9日(火)

山田耕作寄贈の芙蓉会スタインベルグ

ピアノ修復開始

作曲家 山田耕作(1886.6.9～1965.12.29)から戦前に芙蓉会へ寄贈されたピアノを専門の修理工房へ搬送し、修復作業が開始された。当日は、NHK 報道局科学文化部からの取材・放映が行われた。詳細は掲載ページ(10頁)を参照。



6月11日(木)

22世紀医療センター公開セミナー

シリーズ(17)「データベース関連」

時間: 16:30～17:00

場所: 入院棟A1階レセプションルーム

座長: 林 直人(コンピュータ画像診断学/予防医学講座 特任准教授)

講演: 「臨床データベースにおける課題と展望」

宮田裕章(医療品質評価学講座 特任准教授)

7月16日(木)

第2回(平成21年度前期)東大病院ベストスタッフ賞の表彰式

時間: 17:00～17:30

場所: 中央診療棟2(7階大会議室)

詳細は、掲載ページ(16頁)を参照。

7月16日(木) 接遇フォーラム

時間: 17:30～19:00

場所: 中央診療棟2(7階大会議室)

講師: エッセイスト・円ブリオ基金センター

理事長 遠藤順子氏

インターナショナル・メディカル・クロッシング・オフィス院長

堂園涼子氏

主 催: 接遇向上センター

共 催: 総合研修センター

7月16日(木)

平成21年度第1回感染制御セミナー

時間: 18:00～19:30

場所: 臨床講堂

演 題: 医療関連感染に関する最近の動向と提案～臨床の現場における改善策を探る～

講 師: 横浜市立大学附属病院感染制御部長 満田年宏氏

(感染対策センター)

7月18日(土)

東大病院まると探訪 FESTIVAL

時間: 10:00～16:00

場所: 外来診療棟ホール、臨床講堂、中央診療棟2(7階大会議室)

対象者: 医学部5・6年生・初期研修医

詳細は、掲載ページ(12頁)を参照。

(総合研修センター)

7月27日(月) 看護師宿舎5号棟完成式

時間: 15:00開会

場所: 看護師宿舎5号棟前

詳細は、掲載ページ(13頁)を参照。

7月27日(月) 入院棟Aグリーンテラス命名式

時間: 16:00開会

場所: 入院棟Aグリーンテラス

詳細は、掲載ページ(13頁)を参照。

7月28日(火)

東京大学医学部・医学部附属病院

創立150周年記念モニュメント除幕式

時間: 13:00開会

場所: 医学部本館前特設会場

詳細は、掲載ページ(3頁)を参照。

7月29日(水) 一日看護体験学習

高校生が看護に関する体験学習を行うことにより、看護への理解と関心を深め高校卒業時の進路決定の一助とすることを目的に、東京都ナースブラザの主催による一日看護体験学習が行われた。



8月26日(水)

検診部で子ども見学デーが開催される

詳細は掲載ページ(14頁)を参照。

8月27日(木)

新型インフルエンザ対策に係る検査業務の協力者

に対する厚生労働大臣からの感謝状贈呈について

詳細は掲載ページ(14頁)を参照。

東大病院の四季

夏の彩り

夏の盛りである大暑の頃、例年であれば、梅雨も明け、盛夏となるが、今年は、エルニーニョ現象の影響等により日照時間が少なく雨が多い日が続いた。

病院内の花壇に眼を向けると、雨露に濡れた花々達の色鮮やかな彩りを見る事が出来た。

また、木陰に耳を向け、蝉しぐれを聴くと、例年と変わらぬ季節の営みに安堵を感じた。



第2回（平成21年度）東大病院ベストスタッフ賞について

第2回（平成21年度前期）東大病院ベストスタッフ賞授賞式が、7月16日（木）17時から中央診療棟2（7階大会議室）で執り行われ、武谷病院長から今回選出された15名の教職員に「東大病院ベストスタッフ賞」が授与された。今回の授章は、昨年12月の第1回授賞式と同様に病院の質や評価を高めることに大いに貢献しながら、なかなか多くの人に気付かれないような職員を顕彰し、病院の至宝として選出された教職員に心からの感謝と賞賛の気持ちが表わされた。



第2回（平成21年度前期）東大病院ベストスタッフ賞の表彰式
平成21年7月16日（木） 中央診療棟2（7階大会議室）

発行 平成21年9月16日

発行人 病院長 武谷 雄二

発行所 東京大学医学部附属病院

編集顧問 加我 君孝

編集担当 パブリック・リレーションセンター

連絡先 ☎ 03-3815-5411

〒113-8655 東京都文京区本郷7-3-1

E-mail: pr@adm.h.u-tokyo.ac.jp

印刷：(株)学術社